

科目名	親族・相続法 (家族法)	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）	
			法律学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Family Law	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	さとう かつえ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	佐藤 克枝	修得単位	4単位	
授業のテーマ	婚姻、離婚、親子、扶養および相続など家族に関する制度や法的諸問題について学ぶ。			
到達目標	親族法、相続法のそれぞれについて、基本事項を説明することができる。事案を見て、何が法的に問題となっているかを指摘し、意見を述べることができる。			
授業概要	家族における法的な問題とその解決方法を学びます。また、少子・高齢化、生殖補助医療技術の発展など、民法制定時には想定されていなかった問題についてもふれていきます。			
授業計画				
第1回	民法における家族法の位置づけ、家族法の歴史	第17回	相続人の範囲と順位、相続分（相続人・法定相続分のルール、代襲相続、法定相続分の修正）	
第2回	親族法概観（親族関係の概念、範囲、相互扶助）	第18回	相続欠格・相続排除、相続回復請求権	
第3回	婚姻の要件（婚姻障害、届出、婚姻意思の合致、婚姻の無効・取消し）	第19回	相続財産の範囲（包括継承、相続の対象となる権利義務①）	
第4回	婚姻の一般的効果（夫婦間、夫婦以外の第三者との関係）	第20回	相続財産の範囲（相続の対象となる権利義務②）	
第5回	夫婦財産制	第21回	相続の対象とならない権利義務 祭祀財産	
第6回	離婚（離婚の方法）	第22回	法定相続分の計算	
第7回	離婚（離婚の効果）	第23回	遺産共有・遺産分割（1）	
第8回	婚姻外の男女関係（婚約・結納、内縁）	第24回	遺産共有・遺産分割（2）	
第9回	実子（親子関係の基本的枠組み、嫡出子と非嫡出子）	第25回	相続の承認・放棄（単純承認・限定承認・放棄） 遺産分離	
第10回	生殖補助医療により生まれた子の親子関係	第26回	相続人の不存在（相続人不在における財産の清算、特別縁故者による財産分与請求、国庫帰属）	
第11回	養子（制度の概観、普通養子、離縁、特別養子）	第27回	遺言（遺言能力、方式、遺言事項、効力、執行）、撤回）	
第12回	親権（親権の行使、制限、終了）	第28回	遺言（記載要領）	
第13回	後見（成年後見制度の概観、法定後見、任意後見、登記）	第29回	遺留分（遺留分権者と遺留分の割合、算定の基礎となる財産、遺留分減殺請求権）	
第14回	扶養（権利義務、順位、方法、扶養請求権の処分禁止等）	第30回	後半のまとめ	
第15回	前半のまとめ	第31回	後期定期試験	
第16回	相続概観（相続の意義、特徴、相続の開始） 中間試験			
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書の該当箇所に必ず目を通してください。（2時間程度） 2. 単元毎に、前回講義内容の確認を行います。講義の復習をしっかりと行ってください。（2時間程度）			
履修条件 受講のルール	民法総則の単位を修得していることを前提に授業を進めます。 適宜資料を配布しますが、事前に連絡が無く欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。			
テキスト	本山敦ほか『家族法』日本評論社			
参考文献・資料	佐藤義彦ほか『民法Ⅴ－親族相続法（第4版）』有斐閣、田山輝明『事例で学ぶ家族法（第4版）』法学書院、『民法判例百選Ⅲ親族・相続』有斐閣、青竹美香ほか『START UP 民法⑤親族・相続判例30！』有斐閣			

成績評価の方法	【試験（中間４０％、期末４０％）、受講態度２０％】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。
オフィスアワー	月曜日０９：００～１０：３０・水曜日１４：４０～１６：１０
成績評価の基準	平成２８年度（２０１６）以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 平成２７年度（２０１５）以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	家族法（親族法・相続法）では、家族という身近な関係を対象としている対象としているので比較的とりかかりやすい領域です。また民事の法律相談では大半を占める内容ですので積極的な履修を期待します。